

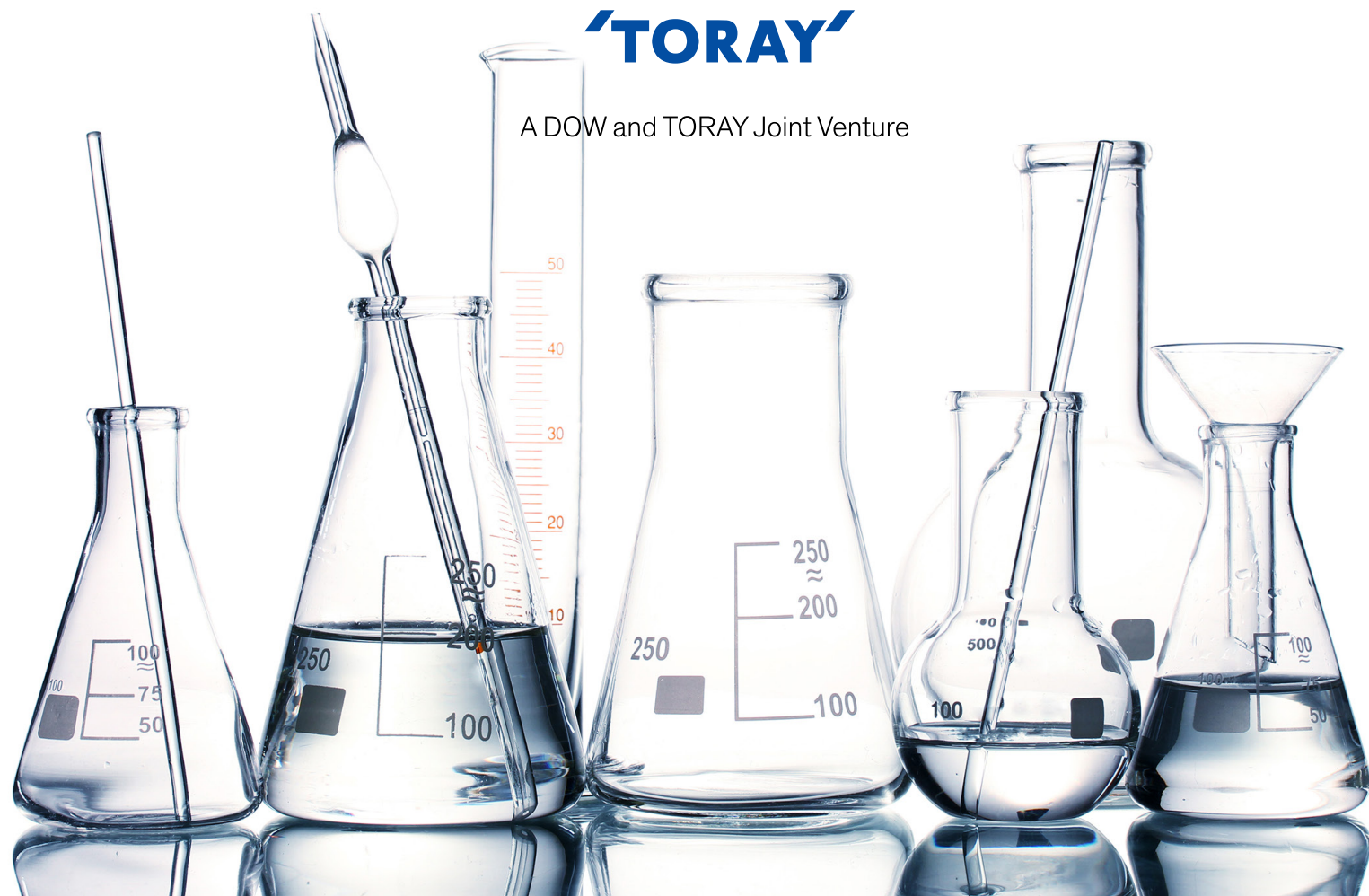
# 有機変性シリコンオイル 製品カタログ

**DOW**

®

**‘TORAY’**

A DOW and TORAY Joint Venture



## Contents

ページ番号をクリックすると該当ページにジャンプします。

有機変性シリコンオイルについて .....	3
有機変性オイルの種類・性質 .....	3
有機変性シリコンオイルの代表的用途 .....	4
変性シリコンオイルの代表的構造 .....	4
代表的用途例一覧 .....	5
反応性シリコンオイル .....	6
1. アミノ変性シリコンオイル .....	6
2. アミノ変性シリコンオイル(特殊型) .....	6
3. エポキシ変性シリコンオイル .....	7
4. カルボキシル変性シリコンオイル .....	7
5. カルピノール変性シリコンオイル .....	7
非反応性シリコンオイル .....	8
1. アルキル変性シリコンオイル .....	8
2. ポリエーテル変性シリコンオイル .....	9
3. (AB) <sub>n</sub> 型ポリエーテル変性シリコンオイル .....	10







## 有機変性シリコンオイルについて

### 有機変性シリコンオイル

有機変性シリコンオイルとは、ジメチルシリコンオイルのメチル基の一部を、有機官能基に置き換えた構造をもちます。

シリコンオイルと言ったら、通常は $(\text{CH}_3)_3\text{SiO}[(\text{CH}_2)_2\text{SiO}]_n\text{Si}(\text{CH}_3)_3$ 、つまり、全てメチル基を有するジメチルポリシロキサンオイルを連想するでしょう。このオイルは、多くの特徴を持っています。

- A. 耐熱性、耐寒性が優れている。
- B. 耐酸化性、耐候性、耐放射線性が優れている。
- C. 表面張力が低く、濡れ性が良い。
- D. 温度による粘度変化が小さい。
- E. 撥水性、耐水性が優れている。
- F. 気体透過性が大きい。
- G. 離型性、潤滑性、電気絶縁性等に優れている。
- H. 化学的な反応性がない。

これらの特徴を活かして多くの用途、例えば繊維用処理剤、離型剤、撥水剤、化粧品、ポリッシュ、電気絶縁油、消泡剤等に広く使用されています。しかし、用途や目的によってはこれらの特徴も欠点となります。そのため、上の化学構造式の両末端や側鎖の一部のメチル基( $\text{CH}_3$ )を有機官能基に置換えて、ジメチルポリシロキサンの特徴を最大限残しつつ、希望する性質を更に付加して改良したオイルが、有機変性シリコンオイルです。



## 有機変性オイルの種類・性質

### 有機変性オイルの種類

有機変性オイル(メチル基の一部を有機官能基で置換したオイル)としては、アミノ変性、エポキシ変性、カルボキシル変性等の反応性官能基を備えたオイルがあります。また非反応性官能基のポリエーテル基やアルキル基で置換した変性オイルもあります。側鎖に官能基を備えた変性オイルが代表的ですが、オイルによっては両末端に官能基を備えたオイルや、片末端のみに官能基を備えたオイルもあります。また、複数の官能基を備えたオイル、例えばアミノ基とポリエーテル基とを備えたアミノ/ポリエーテル変性オイル等もあります。

### 官能基の導入によるユニークな性質

例えば、繊維用風合い改良剤として広く使われている次のオイルを比較してみましょう。重合度が100のジメチルポリシロキサンには202個のメチル基( $\text{CH}_3$ )があります。このメチル基の内の2個を、アミノ基に置換することによって、下記の表のように大きく性質が変わってしまいます。

	ジメチルオイル	アミノ変性オイル
乳化機	ホモミキサー等の特別な乳化機が必要	単なる攪拌器で乳化可能
乳化	困難	非常に容易
マイクロエマルジョン化	極めて困難	非常に容易
エマルジョンの安定性	機械、保存、希釈安定性はそれほど良くない	左と比較して格段に良い
風合の効果	良くない	少量で独特な風合いが出る効果抜群
洗濯耐久性	良くない	洗濯耐久性に優れる

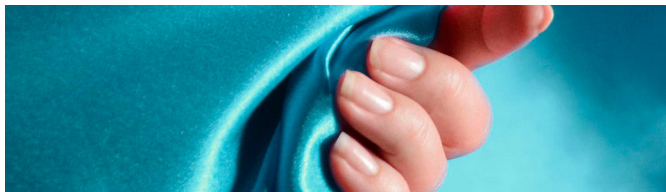


## 有機変性シリコンオイルの代表的用途

### A. 繊維処理(柔軟・吸水・平滑性・帯電防止等)

繊維用処理剤、防皺、防縮加工等を施すと布帛は硬くなり、引き裂き強さ等低下します。これらを改良するため柔軟剤、風合改良剤としてアミノ変性オイルやエポキシ変性オイルが多用されています。

下着やタオル地、ポリエステル繊維100%の黒染め礼服等に有効です。



### B. 樹脂変性剤

シリコンオイルを樹脂に配合することで、樹脂に潤滑性やフロ－性を改善することができます。また反応性の官能基を持った有機変性シリコンオイルと反応させることで樹脂の耐加水分解性を向上したり、可とう性を付与することも可能です。これらは電気・電子材料をはじめとして種々の樹脂製品に使用されています。



### C. つや出し剤(ポリッシュ)

シリコンオイルは柔軟なポリマーであり、固体の表面で伸ばしやすくつや出し剤(ポリッシュ)として利用されています。通常のジメチルシリコンに比べ、アミノ変性シリコンは小粒径のマイクロエマルジョンの調製なども可能でありポリッシュの原料などに使用されています。またアルキル変性シリコンは撥水性を向上させる目的で使用されています。



### D. 撥水剤

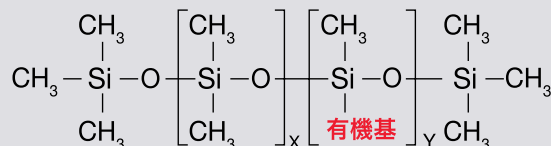
アルキル変性シリコンは浸透型撥水剤の原料として使用され、水分の侵入・凍結によるコンクリート等の損傷防止に役立っています。このほかにも繊維織物・カーペット等の撥水剤原料としても有機変性シリコンは使用されています。



## 変性シリコンオイルの代表的構造

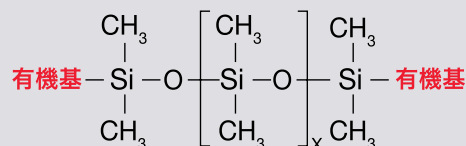
### 1. 側鎖型(ペンダント型)

シリコン鎖の側鎖の一部に官能性有機基を導入したもので、もっとも汎用的な構造です。複数の官能基を導入することも可能です。



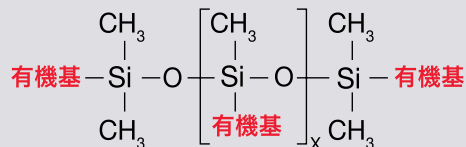
### 2. 両末端型

両末端に官能性有機基を導入したものです。有機官能基を両末端のみに有するため、連続したジメチルシリコン骨格を樹脂に取り込むことが可能です。



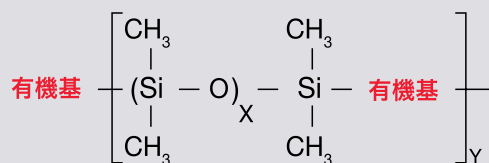
### 3. 両末端側鎖型

両末端と側鎖の一部に官能性有機基を導入したものです。ポリエーテル変性シリコンでは両末端型に比べて相溶性に優れることが多い。



### 4. (AB)<sub>n</sub>型

シリコン鎖とポリエーテル基が交互に直線状になった構造です。さらにアミノ基を導入することも可能です。分子量が大きくなり粘度が高くなるため、特徴のある乳化特性や柔軟性の付与を期待できます。



## 代表的用途例一覧

シリコーン変性オイル		製品名	塗料のレベリング	塗料添加 (消泡)	繊維用吸水処理	繊維用風合い付与	家庭用洗剤柔軟性付与	濡れ性向上・農業用展着	コンクリート撥水剤	アルミダイキャスト離型	カーポリッシュ添加	樹脂改質 (エポキシMC)	人工皮革処理	熱媒・オイルバス
反応性シリコーンオイル	アミノ変性	DOWSIL™ BY 16-205				○								
		DOWSIL™ FZ-3710 Fluid				○					○			
		DOWSIL™ FZ-3760				○					○			
		DOWSIL™ FZ-3785									○			
		DOWSIL™ SF 8417 Fluid				○					○			
	アミノ変性 (特殊型)	DOWSIL™ BY 16-891					○							
		DOWSIL™ FZ-3789				○					○			
	エポキシ変性	DOWSIL™ BY 16-839 Fluid				○					○			
		DOWSIL™ SF 8411 Fluid				○					○			
		DOWSIL™ SF 8413 Fluid				○						○		
		DOWSIL™ SF 8421 Fluid	○			○						○		
	カルボキシ変性	DOWSIL™ BY 16-880 Fluid				○								
	カルピノール変性	DOWSIL™ BY 16-201											○	
		DOWSIL™ SF 8427 Fluid				○							○	
		DOWSIL™ SF 8428 Fluid											○	
非反応性シリコーンオイル	アルキル変性、その他	DOWSIL™ 580 WAX									○			
		DOWSIL™ BY 16-606							○					
		DOWSIL™ BY 16-846 Fluid							○					
		XIAMETER™ SH-203 Fluid	○	○						○	○			
		XIAMETER™ OFX-0230 Fluid	○	○						○	○			
		DOWSIL™ SF 8416 Fluid								○	○			
		DOWSIL™ SF 8419 Fluid				○								
	ポリエーテル変性	DOWSIL™ 501W Additive	○					○						
		DOWSIL™ FZ-2110	○											
		DOWSIL™ FZ-2123	○											
		DOWSIL™ L-7001	○											
		SYLGARD™ OFX-0309 Fluid						○						
		DOWSIL™ SF 8410 Fluid	○		○									
		DOWSIL™ SH 3746 Fluid	○											
		DOWSIL™ SH 8400 Fluid	○			○							○	
		DOWSIL™ SH 8700 Fluid			○	○								
	フェニル	DOWSIL™ SH 510 Fluid (100 cSt, 500 cSt)												○
		DOWSIL™ SH 550 Fluid												○
		DOWSIL™ SH 710 Fluid									○			○
	フロロ	DOWSIL™ FS 1265 Fluid (300 cSt, 1,000 cSt, 10,000 cSt)		○										

※上記は、弊社で把握しうる範囲で過去の使用実績を基に作成した代表的用途例ですが、その他の用途にも適応することが可能なケースもあります。ご使用の際には実際に試験を行ってご判断頂くようお願い致します。

## 反応性シリコンオイル

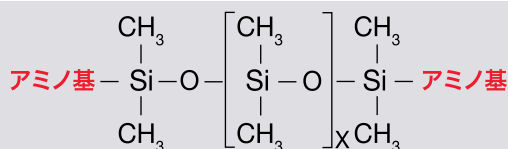
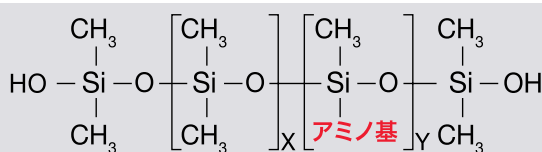
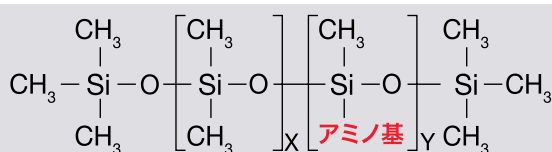
### 1. アミノ変性シリコンオイル

有機基としてアミノ基を導入した変性シリコンオイルです。

アミノ変性シリコンオイルは、アミノ基の持つ吸着能力を生かして、繊維処理剤、毛髪処理剤、艶出し剤、塗料添加剤、樹脂改質剤として用いられています。

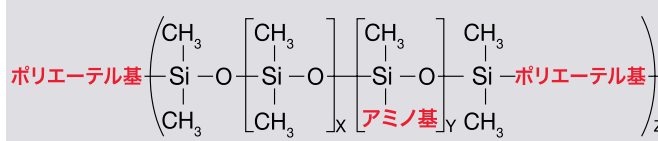
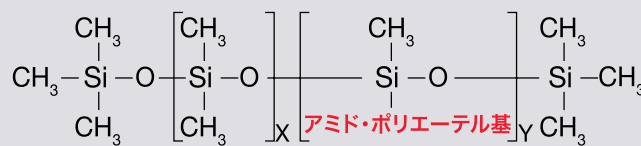
ポリエステル、ナイロン、ポリアクリロニトリルなどの合成繊維をアミノ変性シリコンオイルで処理すると、柔軟性、防しわ性、弾力性、風合いが改良されます。カーワックス、合成木材などに対し、艶出しに効果があり、優れた耐久性を示します。また、皮革処理に応用すれば、撥水性、柔軟性、光沢を付与することができます。

アミノ基の種類としては、アミノプロピル基(モノアミン)、N-(β-アミノエチル)イミノプロピル基(ジアミン)があります。



### 2. アミノ変性シリコンオイル(特殊型)

アミノ基以外の有機基も導入した変性シリコンオイルです。アミド・ポリエーテル変性シリコン、(AB)n型アミノ・ポリエーテル変性シリコンは、ポリエーテル基を有するため、親水性を併せ持つアミノ変性シリコンオイルです。繊維処理剤、塗料添加剤などに使用されています。



製品名	粘度※	官能基当量	官能基構造	比重	備考
DOWSIL™ BY 16-891	930	2,700	アミド	1.01	アミド・ポリエーテル
DOWSIL™ FZ-3789	840	1,300	一級(ジアミン)	1.03	(AB)n型アミノポリエーテル

※ 粘度の単位: mm<sup>2</sup>/s [25°C]

製品名	粘度※	官能基当量	官能基構造	比重	備考
DOWSIL™ BY 16-205	90	3,900	一級(ジアミン)	0.97	
DOWSIL™ BY 16-213	60	2,700	一級(モノアミン)	0.98	
DOWSIL™ BY 16-853 U	14	450	一級(モノアミン)	0.95	両末端
DOWSIL™ BY 16-871	4	130	一級(モノアミン)	0.90	両末端
DOWSIL™ FZ-3710 Fluid	1,000	1,750	一級(ジアミン)	0.97	
DOWSIL™ FZ-3760	220	1,700	一級(ジアミン)	0.98	
DOWSIL™ FZ-3785	3,500	6,000	一級(ジアミン)	0.97	
DOWSIL™ SF 8417 Fluid	1,200	1,800	一級(ジアミン)	0.98	

※ 粘度の単位: mm<sup>2</sup>/s [25°C]

※ 当頁に記載の数値は代表物性値であり、出荷規格ではありません。



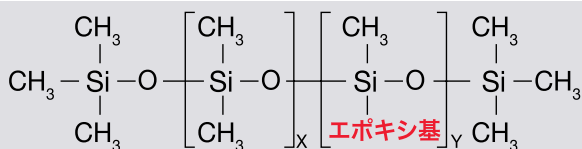
### 3. エポキシ変性シリコンオイル

有機基としてエポキシ基を導入した変性シリコンオイルです。エポキシ変性シリコンオイルは、エポキシ基の持つ化学反応性を生かして、樹脂改質剤、繊維処理剤として用いられています。

樹脂改質用では、半導体封止剤の低応力化、熱可塑性樹脂の成形性改良などに効果があります。また繊維油剤用では、ぬめり感が少なく、平滑性、ボリューム感のある風合いを与えます。

エポキシ・ポリエーテル変性シリコンオイルは、ポリエーテル基を有するため、親水基を併せ持つエポキシ変性シリコンオイルです。親水性のポリエーテル基を導入することにより、帯電防止性や防汚効果を示し、SR (Soil Release) 加工剤として用いられます。

エポキシ基の種類としては、グリシジルタイプ、脂環式タイプがあります。



製品名	粘度※	官能基当量	官能基構造	比重	備考
DOWSIL™ BY 16-839 Fluid	6,000	3,700	脂環タイプ	0.98	
DOWSIL™ FZ-3736 Fluid	2,200	5,200	グリシジルタイプ	1.02	エポキシ・ポリエーテル
DOWSIL™ SF 8411 Fluid	8,000	3,300	グリシジルタイプ	0.98	
DOWSIL™ SF 8413 Fluid	17,000	3,800	グリシジルタイプ	1.00	
DOWSIL™ SF 8421 Fluid	3,100	10,200	グリシジルタイプ	1.02	エポキシ・ポリエーテル

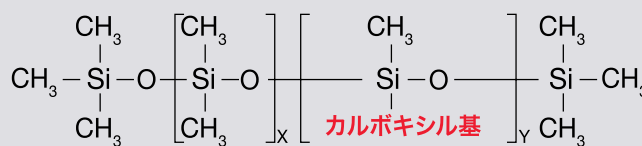
※ 粘度の単位: mm²/s [25°C]

### 4. カルボキシル変性シリコンオイル

有機基としてカルボキシル基を導入した変性シリコンオイルです。

カルボキシル変性シリコンオイルは、カルボキシル基の持つ化学反応性、吸着能力を生かして、繊維処理剤、艶出し剤、樹脂改質剤として用いられています。繊維油剤関連では、風合い改良剤、平滑剤として用いられ、黄変、ぬめり感が少ないという特徴があります。また、アミノ変性シリコンと併用し、耐久性を増すことも可能です。

カルボキシル基が、プラスチックやゴム等を成型する金型ともなじみが良いため、離型剤としても応用されています。



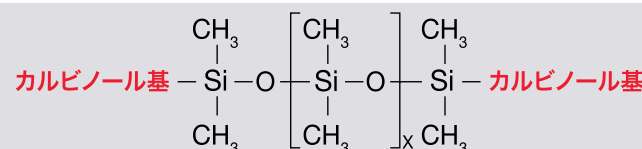
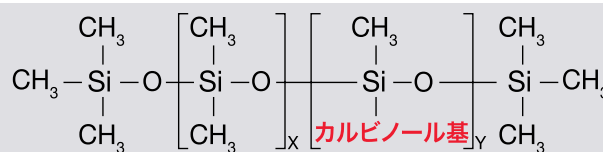
製品名	粘度※	官能基当量	比重
DOWSIL™ BY 16-880 Fluid	2,500	3,300	0.97

※ 粘度の単位: mm²/s [25°C]

### 5. カルピノール変性シリコンオイル

有機基としてカルピノール基を導入した変性シリコンオイルです。

カルピノール変性シリコンオイルは、水酸基を持つため各種の有機樹脂との化学反応性に優れています。この特徴を活かし、ポリウレタン・ポリエステルなどの樹脂改質剤として応用されています。樹脂中にシリコン構造が取り込まれることにより、樹脂の混練性、成形性、離型性、耐熱性、平滑性、光沢、耐水性などの改良が期待できます。



製品名	粘度※	官能基当量	比重	備考
DOWSIL™ BY 16-201	45	750	0.98	両末端変性
DOWSIL™ FZ-3711	60	1100	0.98	両末端変性
DOWSIL™ SF 8427 Fluid	300	1,200	1.03	両末端変性
DOWSIL™ SF 8428 Fluid	140	1,600	0.97	

※ 粘度の単位: mm²/s [25°C]

※ 当頁に記載の数値は代表物性値であり、出荷規格ではありません。

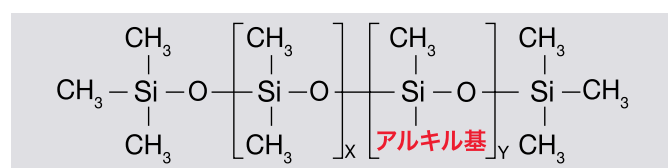
## 非反応性シリコンオイル

### 1. アルキル変性シリコンオイル

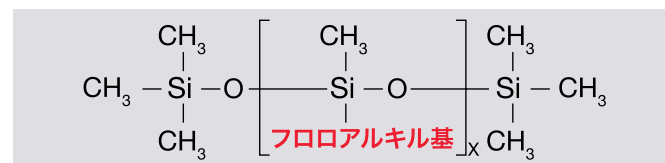
有機基としてアルキル基を導入した変性シリコンオイルです。アルキル変性シリコンオイルには、(長鎖)アルキル、アルキル・アラルキル、フロロアルキル、フェニル変性シリコンがあります。(長鎖)アルキルシリコンは、その有機基の特徴を生かして、プラスチックや金属の成型物の表面の塗装に影響を与え難いペイントタイプの離型剤として応用されています。また、建築用撥水剤としても用いられています。アルキル・アラルキル変性シリコンオイルは、耐熱性、潤滑性に優れることから、ダイカスト離型剤として使用されています。フロロアルキル変性シリコンオイルは、シリコンの弱点である耐油性、耐溶剤性、耐薬品性が改善されており、真空ポンプやギア類の潤滑剤、あるいは消泡剤として使用されています。

メチルフェニルシリコンオイルは、一般のジメチルシリコンオイルに比べ、耐熱性、耐酸化性に優れるため、熱媒としても有効です。また、屈折率が高いことから、化粧品用途にも使用されています。

### アルキル変性シリコンオイル



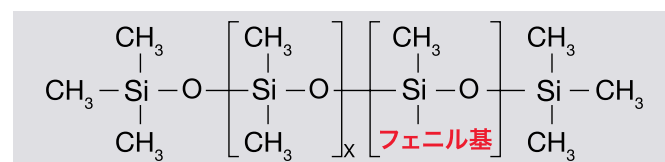
### フロロシリコンオイル



製品名	粘度※	比重	屈折率
DOWSIL™ FS 1265 Fluid (300 cSt)	300	1.25	1.380
DOWSIL™ FS 1265 Fluid (1,000 cSt)	1,000	1.27	1.381
DOWSIL™ FS 1265 Fluid (10,000 cSt)	10,000	1.29	1.382

※ 粘度の単位: mm²/s [25°C]

### フェニルシリコンオイル



製品名	粘度※	比重	屈折率
DOWSIL™ SH 510 (100 cSt)	100	0.99	1.426
DOWSIL™ SH 510 (500 cSt)	500	1.00	1.426
DOWSIL™ SH 550 Fluid	130	1.07	1.497
DOWSIL™ SH 710 Fluid	500	1.10	1.535

※ 粘度の単位: mm²/s [25°C]

製品名	粘度※	比重	屈折率	備考
DOWSIL™ 580 WAX	ワックス状	1.00		
DOWSIL™ BY 16-846 Fluid	20	0.91	1.421	アルキル
DOWSIL™ BY 16-606	20	0.94	1.418	アルコキシ基含有
XIAMETER™ SH-203 Fluid	1,300	0.92	1.466	アルキル・アラルキル
XIAMETER™ OFX-0230 Fluid	1,300	1.01	1.462	アルキル・アラルキル
DOWSIL™ SF 8416 Fluid	950	0.88	1.455	アルキル
DOWSIL™ SF 8419 Fluid	45	0.94	1.427	アルキル・アラルキル・ポリエーテル

※ 粘度の単位: mm²/s [25°C]

※ 当頁に記載の数値は代表物性値であり、出荷規格ではありません。

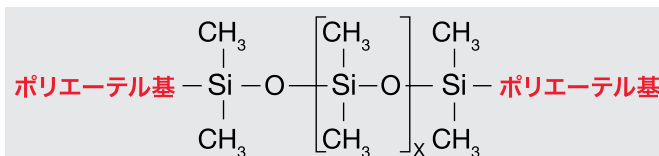
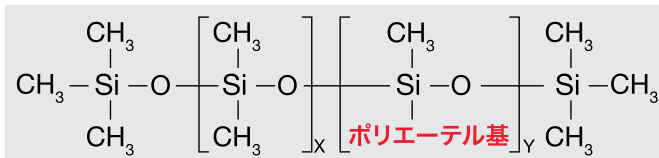


## 2. ポリエーテル変性シリコンオイル

有機基としてポリエーテル基を導入した変性シリコンオイルです。

ポリエーテル変性シリコンオイルは、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、ポリエチレングリコール-ポリプロピレングリコール共重合体を付加しており、非イオン性界面活性剤として、広く使用されています。ポリエーテル変性シリコン中の、シリコン%やEO/PO比によって水やアルコールへの溶解性や界面特性が変わってきます。

繊維油剤としては、親水性付与効果により、防汚性、帯電防止性に優れた効果を示します。塗料用途では、レベリング、ウェットティングなどの塗膜調整剤、消泡剤に使用されています。樹脂添加剤としては、樹脂との相溶性が優れることから、成型加工時の金型離型、帯電防止、樹脂との接着強度向上などの効果が期待されます。



製品名	外観	粘度 <sup>※1</sup>	比重	HLB <sup>※2</sup>
DOWSIL™ 501W Additive	淡黄色液体	20	1.01	11
DOWSIL™ FZ-2104 Fluid	淡黄色固体	900 <sup>※3</sup>	1.03	9
DOWSIL™ FZ-2110	黄褐色液体	130	0.98	0
DOWSIL™ FZ-2123	淡黄色液体	90	1.03	10
DOWSIL™ FZ-2164	淡黄色液体	3,600	1.03	5
DOWSIL™ FZ-5609 Fluid	白濁液体	3,400	1.01	4
DOWSIL™ L-7001	淡黄色液体	2,400	1.03	5
DOWSIL™ L-7002	黄褐色液体	1,200	1.03	8
DOWSIL™ L-7604	淡黄色液体	400	1.07	13
SYLGARD™ OFX-0309 Fluid	淡黄色液体	30	1.03	11
DOWSIL™ SF 8410 Fluid	淡褐色液体	2,900	1.03	6
DOWSIL™ SH 3746 Fluid	淡褐色液体	110	1.05	16
DOWSIL™ SH 3773 M Fluid	淡黄色液状	630	1.04	10
DOWSIL™ SH 8400 Fluid	淡褐色液体	250	1.03	8
DOWSIL™ SH 8700 Fluid	淡褐色液体	1,300	1.04	7
DOWSIL™ Y-7006	淡褐色液体	1,200	1.03	7

※1 粘度の単位: mm<sup>2</sup>/s [25°C]

※2 HLBは製品組成から算出した値です。

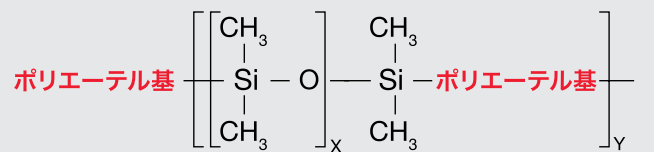
※3 38°Cで測定

## 非反応性シリコンオイル

### 2. (AB)n型ポリエーテル変性シリコンオイル

(AB)n型ポリエーテル変性シリコンは、ジメチルシリコンユニットとポリエーテルユニットが交互に共重合した直鎖状のポリエーテル変性シリコンです。

分子量が大きくなり粘度が高くなるため、特徴のある乳化特性や柔軟性の付与を期待できます。



※ ポリエーテル基:  $-\text{R}(\text{C}_2\text{H}_4\text{O})_a(\text{C}_3\text{H}_6\text{O})_b\text{R}'$

製品名	外観	粘度 <sup>※1</sup>	比重	HLB <sup>※2</sup>	備考
DOWSIL™ FZ-2203	淡黄色液体	4,100	0.99	2	

※1 粘度の単位: mm²/s [25°C]

※2 HLBは製品組成から算出した値です。

※3 30°Cで測定



※ 当頁に記載の数値は代表物性値であり、出荷規格ではありません。







## ダウ・東レ株式会社

本カタログ製品に関するお問合せは下記までお願い致します。

メールでのお問い合わせURL [www.dow.com/ja-jp](http://www.dow.com/ja-jp)

お電話でのお問い合わせ 0120-776-278

イメージ: ページ1 – dow\_40906573548; ページ2 – dow\_40370607940; ページ3 – dow\_40422820800, dow\_43821727788; ページ4 – dow\_40423206707, dow\_73183821556, dow\_58719427834, dow\_63191716533; ページ10 – dow\_40387236885

使用に際し必要な安全情報は本データシートには記載されていません。ご使用の前に、安全データシート(SDS)及び、パッケージ又はパッケージのラベルに表示されている注意書きをよく読んで、使用上の安全をはかって下さい。安全データシート(SDS)はウェブサイト、[www.dow.com/ja-jp](http://www.dow.com/ja-jp)にアクセスしてお求めいただけます。さらに、代理店または担当営業にご依頼いただいても 結構です。

免責事項: 使用条件や適用法令は場所によって異なり、また、時の経過により変更される場合がありますので、お客様におかれましては、本書記載の製品及び情報がお客様の使用(用途)に適しているかどうかを判断し、お客様の作業現場及び廃棄について、適用法令の遵守を確実にする責任があります。また、弊社又はその他の者が所有する特許権の侵害がないことを表明・保証するものではありません。本書記載の製品は、ダウが事業展開する特定の地域で販売あるいは使用できない場合があります。紹介された内容に関しては、特定の国での使用(用途)が承認されていない場合があります。「ダウ」又は「弊社」への言及は、特に明記しない限り、お客様に製品を販売するダウの法人を意味します。商品適格性又は特定目的のための適合性についての黙示的保証はすべて明示的に除外され、保証するものではありません。

®TM: ザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社の商標

DOW TORAYの商標のTORAYの部分は、使用許諾のもとで使用している東レ株式会社の商標です。

© 2025 The Dow Chemical Company. All rights reserved.

2000024826-219400

Form No. 26-2291-42-0625 S2D